

2023年度「21世紀の川崎の教育を創造する研究会」(21研)

全市研究会 講演内容に関する添付資料

21研事務局 小泉

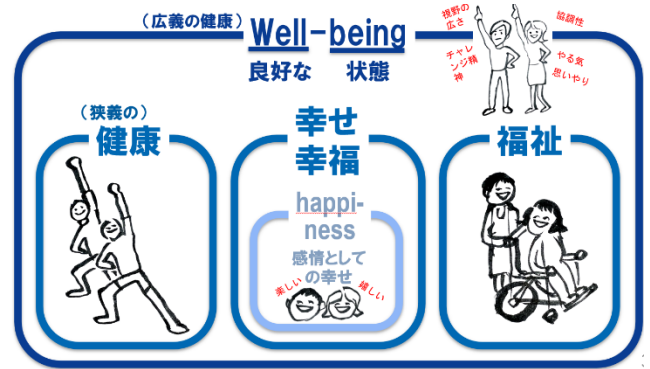
日時：8月18日(金) 14:30~16:00

講師：慶應義塾大学 教授 前野隆司先生

テーマ：「幸福学と4つの因子～子どもの権利条例をウェルビーイングの視点から考える～」

1. ウェルビーイング(Well-being)とは

- 身体的・精神的・社会的に良い状態であることをいい短期的な幸せ(happiness)だけでなく、生きがいや人生の意義など長期的・持続的な幸福を含む概念。
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに個人を取り巻く場や地域、社会が豊かさを感じられる良い状態。



2. なぜ今、ウェルビーイングなのか

- 世界的にウェルビーイングの研究が進み、経済先進諸国において精神的な豊かさや健康までを含めた幸福や生きがい捉えるウェルビーイングの考え方が重視されるようになった。
- 令和5年の文科省・中央教育審議会(中教審)において次期教育振興基本計画の中で今後日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上をめざすことが示された。

3. ウェルビーイングの研究から分かったこと

- 幸せな人は長寿である。
- 幸福感とパフォーマンスは正の相関性がある。
幸福感が高い人は創造性や生産性が高く、欠勤率や離職率が低い。

ウェルビーイングの向上について (次期教育振興基本計画における方向性) [資料8]

ウェルビーイングとは

- 自体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

なぜウェルビーイングが求められるのか

- 経済先進諸国において、GDPに代表される経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがい捉える考え方が重視されてきている。
- OECD(経済協力開発機構)の「Learning Compass2030(学びの羅針盤2030)」では、個人と社会のウェルビーイングは「私たちが望む未来『Future We Want!』」であり、社会のウェルビーイングが共通の「目的地」とされている。

日本発・日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上

日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協働的な要素とのバランスを取り入れ、日本社会に根ざした「調和と協調」に基づいたウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められる。

獲得的ウェルビーイング ← 調和と協調 → 協働的ウェルビーイング

- 獲得的ウェルビーイング: 自己肯定感、自己実現 など
- 調和と協調: 我が国においては両者のバランスが重要
- 協働的ウェルビーイング: 人とのつながり、利他性、社会貢献意識 など

○日本発「調和と協調(Balance and Harmony)」に基づいたウェルビーイングの国際発信(例) (インドネシアG20教育大臣会合・議長サマール) (略) to work towards the achievement of balanced and harmonious oriented well-being and universal quality education by 2030.



京都大学教授 内田由紀子先生
中教審「計画ポイント解説～ウェルビーイング編」リンク

4. 幸福学(well-being study)の基礎

- 「地位財」型の幸せ＝長続きしない
他人と比べられる財、お金やモノ、社会的地位
- 「非地位財」型の幸せ＝長続きする
安全(社会的)、健康(身体的)、心的要因(精神的)において良好な状態
- 幸せの4つの因子
 1. 自己実現と成長(やってみよう因子) 強み、主体性
 2. つながりと感謝(ありがたう因子) 利他、多様性
 3. 前向きと楽観(なんとかなる因子) チャレンジ精神
 4. 独立と自分らしさ(ありのままに因子) 自分軸
- 幸せ・不幸せは他人に“うつる”
(ハーバード大学 ニコラス・クリスタキス教授)

ウェルビーイングの魔法のことば!

